

GROWTH

2021 SPRING vol.38
後援会通信 グロース



東北学院大学

土樋
キャンパス
〔大学院〕文学研究科/経済学研究科/
経営学研究科/法学研究科
〔学部〕文学部・経済学部・経営学部・
法学部(各3・4年)
〒980-8511 仙台市青葉区土樋1丁目3-1
TEL 022-264-6421(総務課)
FAX 022-264-3030()

多賀城
キャンパス
〔大学院〕工学研究科
〔学部〕工学部
〒985-8537 多賀城市中央1丁目13-1
TEL 022-368-1116(庶務係)
FAX 022-368-7070()

泉
キャンパス
〔大学院〕人間情報学研究科
〔学部〕文学部・経済学部・経営学部・
法学部(各1・2年)/教養学部
〒981-3193 仙台市泉区天神沢2丁目1-1
TEL 022-375-1121(庶務係)
FAX 022-375-4040()

東北学院大学後援会通信GROWTH(グロース)vol.38

発行日/2021年4月
編集/東北学院大学後援会事務局(総務部総務課内)
発行/東北学院大学後援会
〒980-8511 仙台市青葉区土樋1丁目3-1 TEL 022-264-6411 FAX 022-264-3030
E-mail kouenkai@mail.tohoku-gakuin.ac.jp URL https://www.tgu-kouenkai.org/
制作/Hi creative inc.

【本紙における個人情報及び掲載記事の取り扱いについて】
本紙に掲載されている個人情報は、本人の了解のもとで本紙に限り公開しているものです。よって、第三者がそれらの個人情報を別の目的で利用することや、本紙の無断転載はお断りしております。

GROWTH(グロース)の意味は、「成長する」です。聖書には、「どんな種より小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる」(マタイによる福音書13章32節)、また、「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です」(コリントの信徒への手紙-3章6節)と記されています。東北学院大学の学生の皆さんが各分野において、知識や技術、教養を十分に修め、神と人に祝されつつ大きく成長するようという期待が本紙に込められています。

■本紙に関するご意見・ご要望をお待ちしております。

特集【震災10年】

それぞれの 3.11を語る。

コーディネーター
柳井 雅也
教養学部地域構想学科 教授



あしたへのメッセージ

災禍のなかの可能性と希望を集めて、未来を展望する。

十年一昔(じゅうねんひとむかし)という言葉があります。確かに世の中は移り変わりが激しく、10年も経つと昔の出来事のように感じられるものです。しかし、時間に風化されるがまま、忘却の彼方に押しやってはいけないこともあります。東日本大震災はその筆頭に挙げられるでしょう。

2011年3月11日、当時私は、学長の任にあった東京の大学のキャンパス内にいました。少しずつ被害の様相が明らかになるにつれ、これは本当に大変なことが起こったと感じました。学生の間からは一刻も早く東北に赴き、ボランティアとして活動をしたいという声が上がりました。そうした全国の若者の熱意と意欲を受け止め、被災地とのマッチングを展開してきたのが、本学のボランティアステーションです。学生ボランティアの組織・仕組みづくりや運営のノウハウは、今後も起きうる災害に備える経験知として共有されるべきものです。さらに震災は、“地域の中にある東北学院大学”としての役割や使命を再認識させる契機となりました。“記憶を記録”し、経験や教訓を人類の英知にするための試みは、今もたゆまず続けられています。

2023年春には、五橋新キャンパスの開学により、地域の中にある大学としての姿がさらに進化・深化します。ここでは主に4つのビジョンを掲げています。一つは本学の伝統である教養教育の充実です。豊かな学びを通じて、一人ひとりが広い視野と多様性への理解を養い、「よりよく生きる心」を育みます。二つ目は文理融合です。持続可能な社会の構築、革新的な未来技術の創出を担う、分野横断的な知識力・発想力を備える人材の育成を目指します。三つ目は社会人(大学院)教育の強化です。働きながら自身の専門性を広げ深めたり、また新しい学問分野に挑戦したりすることは、人生100年時代のキャリア形成に必須な学びの形でしょう。そして最後は、大学の社会貢献、すなわち地域や企業との連携・協働です。大学発の最先端技術を社会に実装していく一方、市民の学ぶ意欲に応じていくリカレント教育や生涯学習にも引き続き取り組んでまいります。

昨年来のコロナ禍により、学生は豊かな学びの季節を、様々な制限下で過ごすことを余儀なくされており、とても心苦しく思っています。本学では、2020年度の前期授業は原則オンラインで、後期からは対面(50名以下に限る)とオンラインの併用で進め、教育の機会と質の保証に取り組んできました。多くの教員にとって、初めての経験となるオンライン授業には、いくつか課題も見受けられたため、ファカルティ・ディベロップメント(大学教員の教育能力を高めるためのプログラム)を導入し、スキル向上を目指しました。その後の学生アンケートでは、7割以上の学生が「オンライン授業の内容が改善された」と回答しています。残念ながら、去る3月18日に宮城県・仙台市において緊急事態宣言が発出されました。それに伴い、入学式を代表者入学式に切り替え、オリエンテーションは、新入生がキャンパスに慣れるように対面とオンラインの併用で開催し、授業は5月1日まで、ゼミや実習を除いて原則オンライン授業で実施することにしました。安易な予断は許されませんが、可能な限り対面を重視した授業を再開し、キリスト教による人格教育が豊かに開花するキャンパス・ライフを実現させます。師や友人との出会いの中で、気づき、学び、考え、自分の未来の輪郭を描いてほしいと願っています。

本学後援会からは、一律5,000円の学生生活援助、感染症予防対策備品、検温機材(サーモカメラ等)のご提供など、多大なるご支援をいただきました。新型コロナウイルス感染症の災禍にあっても「一人の学生も迷うことなく」が本学の揺るぎないポリシーです。今後ともご理解ご鞭撻を賜りたく、紙面を借りて、お願い申し上げます。

2021年4月1日

東北学院大学 学長

大西晴樹

学長メッセージや東日本大震災関連の情報は [こちらから](https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/about/sinsai/10years/) <https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/about/sinsai/10years/>



特集

東日本大震災から 10年



コーディネーター

柳井 雅也

教養学部 地域構想学科 教授

それぞれの3.11を物語る。

東日本大震災から10年。未曾有の大災害は、連綿と続く穏やかな日常を分断し、未来への見晴らしを曇らせました。歴史に「if(もしも)」は禁物とされますが、あの震災がなかったら…と思いを巡らせる方も少なくないでしょう。今回の座談会にお集まりいただいた庄司貴俊さん、佐藤麻南さん、若生有吾さんは、復興・再生期にあった大学/大学院での活動や学び、研究によって、ご自身の将来を力強く立ち上げてこられました。今回の特集では、お三方の経験と物語を共有し、困難にぶつかってもしなやかに乗り越える力について一緒に考えていきたいと思います。



佐藤 麻南さん

文学部 歴史学科卒
石巻市教育委員会職員



若生 有吾さん

教養学部 地域構想学科卒
(株)河北新報社勤務



庄司 貴俊さん

人間情報学研究科 修士
大学非常勤講師

震災という出来事の多面性。 被災地での出会いと学びが 照らした将来の道。

あの日、あの時。
記憶の糸をたどって。

柳井 本日はお忙しいところ、足をお運びいただき、ありがとうございます。今回は、キャンパスを離れて、仙台市若林区に建設中の複合施設「アクアイグニス仙台」の現場事務所をお借りし、座談会の席を設けました。東日本大震災前、この地域一帯にはいくつかの集落がありました。名取川の河口に位置し、貞山堀に縁どられる地ですから、海の恵みと共に生きてきた方も多かったことでしょう。しかし、津波によって大切な命と豊かな日常が奪われました。亡くなられた方々と御遺族に対し、心から哀悼の意を表したいと思います。

柳井 地域再生の象徴、拠点として整備が進められているアクアイグニス仙台では、多彩な能力と個性…特に若い意欲と情熱を運営に生かしていくことを計画されて



若生 有吾さん
2017年 東北学院大学教養学部地域構想学科卒業。㈱河北新報社勤務。

おり、本学教養学部地域構想学科の柳井ゼミでは事業企画やイベント立案のお手伝いをしています。来年4月にはオープンの運びとなるようですから、ぜひ心に留めていただければと思います(編集部注:同施設はp8でご紹介しています)。さて、皆さんの話をお聞きしていきます。若生さんのご実家はここからほど近い場所にあったそうですね。

若生 はい、津波が来襲し、実家とその周辺は辛うじて建物は残ったものの、地域は壊滅状態でした。家族が無事だったことは幸いでしたが、目の前でご遺体が運ばれていくのを見るのは辛い体験でした。当時は、野球部の練習に明け暮れていた高校1年生でした。

柳井 それは大変でしたね。この時期、子どもに悲惨な写真や映像をみせたくない配慮を重ねた保護者も少なくなかったようです。佐藤さんも津波被害に遭われたのですよね。

佐藤 発災時は、高校を卒業したばかりで、祖母と二人、海岸線から1キロメートルほどにある自宅にいました。揺れはひどかったのですが、津波は来ないだろうと完全に思い込んでいました。ですから、ゴーという地鳴りのような音が聞こえた時は、パニックに陥りました。家の基礎と土台が高かったのが、難を逃れましたが、周囲の家々は床上浸水でした。上水道が復旧するまで、給水車と自宅、そしてご近所さん(高齢者のお宅)を何度も往復したことを覚えています。

柳井 佐藤さんは入学式ができなかった世代ですね。庄司さんは学部1年生だったとお聞きしていますが、

庄司 そうです、春休みで妹と自宅にいました。2日前にも地震(前震、M7.3)がありましたから、揺れ始めた時は「またか」とのんきに構えていましたが、どうも様子が違う。家が崩れると思い、とっさに妹と窓から脱出しました。ラジオで大きな津波があったことを知り、そのあと高校の同級生が犠牲になったと聞きました。震災がもたらす最も暗い不幸、死を身近に感じた体験でした。

被災地で学んだことを、 成長の原動力に。

柳井 被害の程度がどうあれ、私たちは東日本大震災の影響から逃れることはできなかったように思います。ネガティブ一辺倒ではなく、暗闇の中に一筋の光明を見出した方もおられるでしょう。皆さんの場合はどうだったでしょうか。

若生 私自身も被災者でしたが、被災者に何か手助けしたいという気持ちをずっと持ち続けていました。入学後に始めたのが、東北学院大学災害ボランティアステーションの活動です。仮設住宅の集会所などに伺い、足湯やマッサージをして差し上げながら、被災者の方と世間話などを交わしました。震災後のメンタルケアや“心の復興”は、大きな課題として挙げられますが、お一人おひとりと向き合い、傾聴(相手の話に耳を傾けながら、声、表情、しぐさといった言葉以外の部分にも注意を払うことで理解を深めようというコミュニケーション技法)しながら寄り添うことが、震災によって傷ついたり固く閉ざされてしまったりした心を癒してほくことにつながっていくと実感しました。

柳井 若生さんはボランティアを通じて、素晴らしい気付きを得られたんですね。東北学院大学災害ボランティアステーションは、被災地ニーズと全国の学生ボランティアをつなぐ結節点のような働きをしました。こうした経験とノウハウは、全国の学生ボランティア組織へと水平展開していきたいですね。佐藤さんもまた被災地とじっくり関わってこられたのですよね。

佐藤 はい、大学の授業で、鮎川(石巻市)の文化財レスキューに取り組みました。津波によって泥をかぶってしまった民俗資料(古い農具や漁具)をクリーニング、簡易燻蒸、脱塩する作業です。修復作業を終えた民俗資料を広く公開する移動博物館やワークショップも主催しました。鮎川の住民の方と会話を交わすと、今回の震災のことはもとより、昭和30年代に捕鯨で賑わったまちの様子を熱心にお話されることに気づきました。思い出話、自慢話として片づけられそうなものですが、私はそこにかつての生き生きとした地域文化をみたのです。今こそ体系づけて記録し、残すべき価値あるものと思いました。鮎川浜の捕鯨は、卒業論文として編むことができました。実は卒業してからも“鮎川詣”は続けていました。

新しい価値創造で、 地域産業を未来へつなげる。

柳井 震災で大きな変化が見られたことの一つに、地域コミュニティへの「若者のコミット」という点が挙げられると思います。ボランティアで多くの人たちが訪れ、中には地域に魅せられて定住した人もいます。これまで小さな集落で培われてきた文化が揺さぶられたということですね。い

にしえから伝わる良き事物とこれまでになかった発想が融合した“新しい価値”も生まれているようです。私はここに産業復興の新しい可能性をみるのです。

庄司 私も震災翌年からゼミ活動の一環として被災地漁村(石巻市桃浦)の調査に携わりました。ここは日本初の水産業復興特区です。従来の漁業文化や漁業経済に一石を投じるようになった本政策に、どうして手を挙げたのか、とても興味がありました。また、導入により漁業集落コミュニティがどのように変化し、その再生と持続に結ばれてゆくのかを考察したいと考えました。当事者への聞き取りは慣れないこともあり神経を使いましたが、「自分たちの意見や活動を記録してくれるのはありがたい」という言葉に接したとき、論文を何としても完遂しなければならないと思いました。フィールドワークの成果は『千年災禍の海辺学—なぜそれでも人は海で暮らすのか』(金菱清・東北学院大学震災の記録プロジェクト編集、2013年、生活書院)の中の一章として収められています。

柳井 試行錯誤がしっかりかたちになったんですね。新しい産業づくりには、「共助」と「創意工夫」、この二つが柱になってくると思います。桃浦の場合は、仙台市の水産会社と協働していますね(共同出資で起業)。沿岸養殖漁業における六次産業化



佐藤 麻南さん
2015年 東北学院大学文学部歴史学科 卒業、2019年 同大学院文学研究科アジア文化史専攻 博士前期課程中退。石巻市教育委員会職員。

と、持続的な地域産業形成を図るという方向性でしょう。シンプルで目を引くロゴデザインの開発や販路開拓なども、異業種とのアイデア・技術交流によって生み出されているようです。私は自治体が進める震災復興まちづくりや、産業政策に助言する立場にありますが、被災者の立場に寄り添いつつ、時に大胆に新しい価値を創造する新機軸を提案しています。足元をしっかりと見つめる虫の目、未来を見渡す鳥の目の双方が必要だと考えています。





庄司 貴俊 さん

2014年 東北学院大学教養学部地域構想学科卒業、2019年 同大学大学院人間情報学研究所人間情報学専攻 博士後期課程修了。東北学院大学並びに米沢女子短期大学非常勤講師。

研究対象だった被災地が、第二のふるさとに。

柳井 先ほど佐藤さんから大学卒業後も卒論で関わった地域に通っているというお話がありました。もう少し詳しくお聞きしてもよいですか。

佐藤 大学を卒業してから民間企業に就職したのですが、鮎川が忘れ難く(笑)、休みなどを利用しては訪れていました。会社では目の前のことで手一杯。忙殺され、日々があっという間に流れていく中で、やりたいことを仕事にしたいという思いが高まっていきました。ついには退職し、大学院(東北学院大学文学研究科アジア文化史専攻)で引き続き研究に取り組むことになりました。鮎川は私にとって特別な地、「第二のふるさと」ともいべき吸引力と魅力を具えた場所です。鮎川浜の隆盛期を撮影した古写真から「黄金時代」の地域社会や民俗を考察した論文は、東北学院大学論集に収められました。現在は、学芸員として石巻市で働いています。今春、市には新たに複合文化施設「マルホンまきあーとテラス」が開館するのですが、施設内には博物館がつくられる予定です(2021年秋開館)。私はその準備を担当していて、

ちょうど学生時代に文化財レスキューに携った鮎川の資料も、市の文化財担当者として管理をすることになります。

柳井 佐藤さんの願いが、この上ない形で叶ったんですね。奇縁を感じずにはいられません。震災を契機に、また、ある意味導かれて、今があるということでしょう。

“暮らしの復興”、当事者目線に立つ研究を。

庄司 私も震災がなければ、おそらく今の仕事(大学講師/研究者)には携わっていないと思います。学部卒業後は、ゼミで取り組んだ震災復興研究をもっと深め、学術的な専門性を磨きたいと考え、大学院(東北学院大学人間情報研究科人間情報学専攻)に進学しました。博士前期・後期課程では、原発被災地である南相馬市(福島県)を研究の舞台に選びました。例えば、地震、津波、風水害(台風、洪水)といった自然災害に対し、私たちは備えや防災といった文化を有していると思います。しかし、原発事故といった未だ経験のない災害に遭ったとき、どう立ち向かい、あるいは対処し、暮らしを立て直すのかといった点に私は興味があったのです。復興というと、住宅、道路、防潮堤、公園といったハード面の整備が目立りますが、また、それらは目に見えるので評価も容易ですが、被災者としては“暮らしの復興”のほうがより重要です。そうした当事者目線を研究の対象にしています。

若生 庄司さんから自然災害の受容について話がありましたが、私の実家が被災した土地は、災害危険区域に指定され、現在は果樹園になっています。淋しい気持ちもありますが、受け入れざるを得ませんね。でも先祖代々の土地屋敷を大切に守ってこられた方にとっては、非常に無念でつらいことだと思います。現在は、河北新報社の販売部に勤めていますが、地元紙を就職先に選んだのは、やはり被災地の復興を見届けたい、支援したいという気持ちがあったからです。

同時代を生きた人が等しく背負う震災の記憶。

若生 知人と震災の話をしていた時のことです。本人は県内内陸部の在住で被害が軽微だったにもかかわらず、災害や復興に対する想いや意識が強く、驚かされたことがありました。被災者とは被害の有無で定義できるものではなく、震災の記憶は、同時代を生きた人たちが等しく背負っていくものだと思います。

庄司 私は山形県内の大学で教壇に立っています。講義では震災復興研究の知見を共有し、様々な課題について学生たちに考えてもらっているのですが、話を聞いてみると、震災のことをよく知っていて、危機意識がとても高いのです。どうやら東日本大震災の映像を通じて、追体験をしているようでした。若生さんの言う通り、被災地からの距離や物理的被害だけでは測れない影響があるのだと感じています。

柳井 東日本大震災は、私たち一人ひとりの心も揺らした出来事だったことがわかります。最後に皆さんの目標をお聞かせください。

佐藤 被災地に人が集まるのは祈りの意味もありますし、元気づける、エールを送るという効果も大きいと思います。これまで多くの復興イベントが催されましたが、主催者と地元の人たちとの間に温度差があったことも少なからずありました。震災10年を迎え、これからは公的支援も縮小していきますから、地域の人たちを巻き込んで何か新しいことを始めてみたいですね。行政にいるからこそできることがあると思います。

庄司 私は大学講師の傍ら、震災復興研究も続けていて、現在は、福島県浪江町にある漁村でフィールドワークを行っています。被災者の暮らしの様子、コミュニティの変遷、季節行事などを地道に記録として残しながら、災禍の中で人はどう生活を立て直していくのか…一研究者としての解を見出していきたいと考えています。そうして得られたも

のを書籍や公開テキストとして、多くの人に読んでいただくことで、知恵や教訓として共有することを目指しています。自分の営為を、開かれた英知にしていくことは研究者としての責務・使命の一つであろうかと思います。

これからも続く心の復興。歩み、止めることなく。

若生 私は学生時代のボランティア活動で、様々な背景を持つ、いろいろな世代の人たちと交流してきました。学ぶことも多かったですし、何より多様性というものに触れられたと思います。ここで育まれたコミュニケーション力は、社会人としての強みになっています。正直に言えば、日々の仕事と暮らしに追われる中で、震災や復興への想いが薄れていっていると感じることもあります。今日は皆さんの話の中から、新しい視座と視点

を得ることができました。私もテーマを見つけて、震災復興について、自分なりの探究・考察をしてみたいと思います。

柳井 復興まちづくりによって、かつての姿が失われた地域もあります。特に防潮堤の建設などは、土地利用規制、科学的な根拠、住民の合意形成など、さまざまな要求を満たしていかなければなりませんでした。私も個人的な意見はありますが、一旦は受け入れ、前を向っていくことが必要です。これからの私たちが挑むべきはソフト面での復興でしょう。震災復興の研究、防災文化の伝承、地域づくりなどを庄司さん、佐藤さん、若生さんがそれぞれのフィールドで取り組まれていることを非常に頼もしく思いました。時間による記憶の風化は避けることのできないものですが、震災の経験と教訓は子々孫々と伝承していかなければなりません。今日は興味深いお話をありがとうございました。



コーディネーター

柳井 雅也

東北学院大学教養学部地域構想学科 教授

profile

福島大学経済学部卒業、法政大学大学院人文科学研究科地理学専攻修士課程修了。岡山大学助教、富山大学経済学部教授を経て2005年4月より現職。

座談会出席者の所属、仕事内容などは、2021年2月19日現在のものです。



賑わいの新拠点、2022年春オープン。

AQUAIGNIS SENDAI

仙台市の防災集団移転跡地の利活用事業として、深松組(建設業、仙台市青葉区)が整備を進める複合施設「アクアイグニス仙台」(仙台市若林区藤塚)。約1万坪の敷地には、天然温泉、レストラン、パティスリー・ベーカリー、マルシェ、農業ハウスなどが展開され、「五感で楽しむ」機会の創出を目指します。中でも、食の部門は、パティシエの辻口博啓氏、鶴岡市の伊料理「アル・ケッチャーノ」の奥田政行氏、和食「賛否両論」の笠原将弘氏というスターシェフがメニューを監修するとあり、オープン前から話題を集めています。

<https://saiyo.aquaignis-sendai.jp/>

PRESENT

庄司さん、佐藤さんの論文が収められた書籍/論文集、並びに東北学院東日本大震災アーカイブプロジェクト委員会が編集した書籍をプレゼントいたします。応募方法など、詳しくは16ページをご覧ください。

編集部注:写真撮影時のみマスクを外しています。座談会は新型コロナウイルス感染症対策を徹底したうえで行いました。

2021年度 後援会総会、地区後援会について

今般の新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、後援会総会は**書面議決方式**にて行うこととし、地区後援会は**開催方式の検討**をしております。保護者の皆さまにおかれましては、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

後援会総会

例年5月に保護者の皆さまにキャンパスへお集まりいただき、総会並びに大学開放プログラムを開催しておりますが、今年度も昨年度同様に参集開催を取り止め、**書面議決**にて行うことといたします。

5月中旬に関係資料を保護者の皆さまへお送りいたしますのでご確認いただきますようお願い申し上げます。

また、当日にご講演をいただく予定であった瀬古利彦氏による「保護者のための教養セミナー」については、後日改めて開催いたします。

保護者のための教養セミナー 瀬古利彦さん講演会

- 講演日: 6月中 (予定)
- 会場: 東北学院大学
土樋キャンパス

※オンラインによる講演となる場合がございます。



プロフィール

1956年7月15日、三重県桑名市生まれ。日本長距離界、マラソンブームを牽引してきた第一人者。2013年4月より、横浜DeNAランニングクラブの総監督。現在は「横浜DeNAランニングクラブ エグゼクティブアドバイザー」として活動中。

2011年～(公財)日本陸上競技連盟 理事
2016年12月～(公財)日本陸上競技連盟 強化委員会・マラソン強化戦略プロジェクト リーダー
2017年～(一財)東京マラソン財団 理事

申込み方法

後援会LINEまたはホームページにてお知らせいたします。

後援会LINE 後援会ホームページ

地区後援会

例年7月～9月にかけて、北は北海道から南は東京都までの各都市に本学教職員が出向き、大学の近況報告や個別面談などを行っております。

今後の新型コロナウイルスの感染状況を慎重に判断し、**参集開催または昨年度同様にオンラインでの開催**を検討しております。

開催の有無につきましては、別途お知らせいたします。



昨年10月に開催したオンライン地区後援会の様子はこちら
<https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/info/top/201130-3.html>



TOPICS 1

■ 後援会LINEをはじめました。

後援会のイベントや大学のニュース&トピックスをお届けいたします。

本後援会では、保護者の皆さま向けに学内の様々な情報の発信手段として、通信アプリ“LINE”を導入することにいたしました。

登録方法

1. 東北学院大学後援会のLINE公式アカウントに友だち登録

右記QRコードを読み込むか、ID検索:@466zniyqをしていただき、友だち登録をしてください。(アカウント名「東北学院大学後援会」で検索しても検索結果には表示されませんのでご注意ください。)

2. 保護者登録用のアンケートに回答

友だち登録後に送信されてくるメッセージ内のURLをクリックし、アンケートに回答してください。アンケートにご回答いただくことで、ご子女に合わせた情報が届きます。



TOPICS 2

■ 若手卒業生にインタビューをしました。

動画は、社会の様々な分野で活躍する若手卒業生の皆さんに、大学時代の経験がどのように現在の仕事に役立っているのか、また、就職活動を行った際の心構えや取り組みなどについてインタビューをしたものです。全6学部の若手卒業生が登場し、勤務先も民間企業、公務員とバラエティ豊かな体験談です。ぜひご視聴ください。

- 福澤 夏美さん (文学部英文学科卒業、陽光ビルサービス(株))
- 林 碧さん (経済学部経済学科卒業、(株) 荘内銀行)
- 丹野 真翔さん (経営学部経営学科卒業、(株) 薬王堂)
- 熱海 亮輔さん (法学部法律学科卒業、大崎市役所)
- 土井 達也さん (工学部電気情報工学科卒業、(株) ユアテック)
- 佐藤 舞さん (教養学部言語文化学科卒業、アイベックスエアラインズ(株))



動画は後援会ホームページにて公開中 <https://www.tgu-kouenkai.org/>



“計算”を武器に、 コンクリート構造物の 安全安心をまもる。

石川 雅美 研究室
工学部 環境建設工学科

どんな研究に取り組んでいますか？

2021年3月6日、「気仙沼湾横断橋」を含む区間が完成し、東日本大震災からの復興道路として整備が進められてきた宮城県内の三陸沿岸道が全線開通し、宮城県仙台市と岩手県宮古市が高速道路で結ばれました。この横断橋の建設には、コンクリート工学の構造系の研究者として計画段階から携わってきました。私の研究テーマは、コンクリート構造物のひび割れを数値解析によっていかに予測するか、という点にあります。そこで用いられるのは数学であり、実験中心のコンクリート工学というイメージからはかなりかけ離れた分野といえるでしょう。

この横断橋については、研究室の複数の学生が卒業研究に取り上げ、橋台（橋の両端にあって、橋を支える構築物）のひび割れ解析を行いました。コンクリートは化学反応によって固まるため、その際、熱が発生し、その熱が冷える時にひび割れが生じる場合があります。横断橋のような海に架かる橋では、潮風に含まれる塩分や冬期間にまかれる凍結抑制剤の塩分がそのひび割れに入り、鉄筋が錆びてコンクリートが劣化し構造物の耐久性が落ちることにつながります。研究



では、熱の発生（温度）を原因とするひび割れを計算によって解析し、実際に生じたひび割れと比較した結果、ほぼ一致することが明らかになりました。この研究は、大型構造物の施工にあたり、効果的なひび割れ対策を施工前に実施することを可能にします。また、完成後にひび割れが出た場合、そのひびが温度による止むを得ないものなのか、それとも施工不良が原因なのかも明らかにすることができるとしています。

こうした解析手法は、その他の要素への展開が可能です。例えば、コンクリー

トに付着する塩分量を予測し、それによれば、鉄筋の錆の発生を予測することができれば、構造物の点検間隔や、最適な補修時期を定めることができ、合理的な維持管理計画を立てることができるよう。高度成長期に整備された高速道路やトンネル、橋梁といったインフラの多くが供用後50年を経過した今、私たちの研究へのニーズはますます高まっていると考えています。

研究室で大切にしているのはどんなことですか？

私の研究室では、計算による構造物の解析・評価という研究手法を広く役立てるため、社会貢献につながる活動にも積極的に取り組んでいます。具体的には、国や県などからの依頼を受け、完成後かなりの年数が経過したダムや橋梁といった構造物の状態の評価を行っているほか、産学官民が一丸となって取り組んでいる「インフラメンテナンス国民会議東北フォーラム」のリーダーとして主催しています。

こうした公的な活動に魅力を感じているのか、私の研究室には、土木職の公務員をめざす学生が多く集まっています。学生個々の努力もあって、国土交通省東北地方整備局や県などの自治体に土木系技術職として多く採用されています。私自身は、大学の教員になる前の18年間、大手ゼネコンの社員として土木設計の分野で仕事をした経験を持っています。構造物が完成した時の喜びと達成感は、そこで働いていたからこそ味わえたものであり、当時の経験を話すと、学生たちは興味を持って聞いてくれます。研究室で大



石川 雅美 教授

1984年法政大学大学院修士課程工学研究科建設工学専攻修了。同年東急建設株式会社入社。2002年退職。同年東北学院大学工学部教授。
専門：コンクリート工学(構造系)
[インフラメンテナンス国民会議東北フォーラム]リーダー
2009年、2017年、2018年日本コンクリート工学会東北支部論文賞、2014年日本コンクリート工学会功労賞、2017年日本・ヨーロッパコンクリート工学会合同国際会議「CONCRACK5」最優秀講演賞(JCI-FILEM International Workshop on "Control of Cracking of Mass Concrete and Related Issues Concerning Early Age Cracking of Concrete Structures" CONCRACK 5)

column

気仙沼湾横断橋

三陸沿岸道路の気仙沼～唐桑南間に架かる橋梁。気仙沼湾に架かる区間は、「斜張橋」とよばれる形式の橋梁で、主塔から張られたケーブルで橋桁を支える美しい形状は、気仙沼市の復興のシンボルのひとつとしても期待されています。



切しているのは、一緒に勉強するという。ライバル心を持ちながらも、共に学び合い、チームワークを養いながら試験対策をやってくれたらいいと思います。

私の研究室で研究を行うには、数学の力が絶対的に不可欠です。実験を中心とする経験工学と考えられがちな土木工学に高度な数学的アプローチを取り入れ、理論的な説明を試みる。そうした分野に興味のある学生たちに集まってもらい、さらに研究を進め、技術と社会の進歩に貢献していきたいと考えています。

夢のために
今できること

コロナ禍の困難な状況のもと 希望の進路を実現

学生の就職活動にも大きな影響を及ぼした新型コロナウイルスの感染拡大。
これまでとは異なる新たなスタイルでの就職活動を経て、
希望の進路を実現した2人の卒業生に、それぞれの経験と思いを語ってもらいました。

オンライン中心の就活でも、 基本は従来と同じだった

佐々木 就職決定おめでとうございます。昨年3月、採用の広報活動の解禁直前に大学主催の企業研究セミナーが中止になるなど、新型コロナウイルスの感染拡大は皆さんの就職活動(以下「就活」という)にも大きく影響したと思います。最初に、どんな思いで就活に取り組んでおられたのかをお聞かせいただけますか。

藤原 例年とは明らかに異なる状況となってしまい、先輩方の経験も参考にできず、誰に相談すればいいのか、それが少し不安でした。とはいえ、企業が求める人物像に変化はないと考え、就職キャリア支援課にある試験報告書等の資料から、どんなことが質問されるのかを調べ、対策を進めました。

泉田 4月からの個別面談は自宅でのオンライン面談になりました。初めてのことでどうすればいいか戸惑いもありましたが、友人と情報を共有し、アドバイスをもらえたのが心強かったです。面談は自分が書いたエントリーシートに基づいて進められますから、一貫性をもって質問に答えるように心がけました。

佐々木 私たち就職キャリア支援課では、制約があるなか、オンラインも活用しながら可能な限りの支援を行ってきました。大学からの支援については、どんな印象を持っていますか。

藤原 エントリーシートの書き方など、自分ではわからないこともあるので、経験豊富な職員の皆さんに添削していただけるのはとても助かりました。

泉田 就活のスケジュールについて、先輩たちの経験をお聞きする機会があり、とても参考になりました。

佐々木 オンラインでの就活が中心となっているなか、自宅のオンライン環境が十分ではない学生もいます。そうした学生のために、オンライン就活用の個室ブース(P14参照)をすべてのキャンパスに設置することにしました。オンラインの環境に不安のある学生には、是非活用していただきたいと思っています。

企業での本学の存在感が 大きな支えになった

佐々木 実際に就活に取り組むなかで、本学の学生として何か感じたことはありましたか。

藤原 宮城県内の企業の説明会に参加すると、本学の学生が多く参加していて、安心感がありました。

泉田 本学の場合、OB・OGの方が企業の側にも多くいらっしゃいます。「私も○○学科の出身ですよ」といったお声をいただき、とても心強く感じました。

佐々木 お二人の就職先はどちらも、本学の卒業生が多く在籍している企業ですから、入社後もいろいろな形でつながり

を持つことになるでしょう。今後は本学を卒業した先輩として、後輩たちの相談に乗っていただけたらと思います。実際の就活についてお聞きしますが、特に気を付けたことなどはあったでしょうか。

藤原 面接などの際、目上の方と話す際にラフな部分が出ないように注意しました。また、話が冗長にならないように、伝えたいことをシンプルに伝えられるように心がけていました。

泉田 就活の進み具合は人それぞれ異なるものです。自分はまだまだ、友人のなかには内定が出たという人も出てきます。そんな時、自分のペースを乱さずに就活を続けていくように努めました。授業もオンラインになり、友人と直接言葉を交わす機会が減ってしまったため、「自分だけ苦しいんじゃないか」と考えてしまう時もありました。

佐々木 そうした落ち込む気持ちを克服するために、どんなことをしましたか。

泉田 できることを毎日少しずつしようと思い、自分史を作ってみるなど、振り返りを大切にしました。

佐々木 これから就活に取り組む学生のなかには、授業もオンライン、就活もオンラインということで、とても不安に感じている学生も多くいます。そうした後輩たちに何かアドバイスはありますか。

泉田 自分のペースで、できることをコツコツ積み重ねていく、そして最後までやり抜くことが何より大切だと思います。



藤原 悠斗さん 法学部法律学科卒業
株式会社バイタルネットに就職

佐々木 克典 就職キャリア支援課 課長

泉田 歩未さん 経営学部経営学科卒業
株式会社七十七銀行に就職

藤原 “緊張”とどう付き合うかがポイントではないでしょうか。実際に面接が始まってしまえば、自ずと緊張は和らぐものです。そのことを念頭に置いて就活を進めてほしいと思います。

地元への貢献、 その思いを胸に社会へ

佐々木 お二人とも地元である宮城県の企業に就職を決めたわけですが、どんな理由からそれぞれの企業を選んだのでしょうか。

藤原 コロナ禍の影響をあまり受けず、地元で貢献できる企業ということで、医療・福祉関係のこの会社を選びました。

泉田 金融機関は経済の中心的な存在であり、東北そして宮城を活性化したいという思いがあったこと、そして学生時代に取得した簿記などの資格が活かせることに

魅力を感じ、銀行への就職を決めました。

佐々木 就職後、それぞれの企業でチャレンジしてみたい仕事はありますか。

藤原 これまでお世話になった方々への恩返しのお気持ちも込めて、介護用品の提供事業に携わりたいと考えています。

泉田 銀行業務の大きな柱の一つである融資業務を担当できればと考えています。ゼミで学んだマーケティングの知識や

手法を用いて、個人のお客さまのライフイベントや企業のお客さまの課題に対し、融資の面から適切なサポートを提供したいです。

佐々木 コロナの収束が不透明な現在、後輩たちにとってとても参考になるお話をありがとうございました。お二人の今後のご活躍をお祈りしております。

オンライン就活用 個室ブースを 全キャンパスに設置

各キャンパスにオンラインによる就活用に個室ブースを設置しましたので、面接等にご活用ください。詳細は各キャンパスの就職キャリア支援課(係)まで。

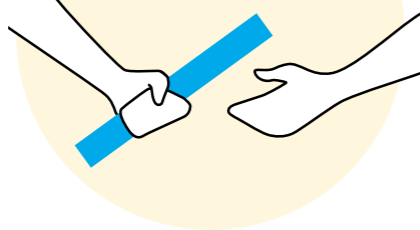




津波の被害から、植物が回復していく様子を実感することができました。



Student's Relay interview



まなまな
ぶらぶら

地元の方との会話が楽しくて、作業の手が止まってしまうこともあるほどです。



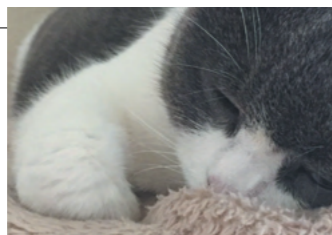
name: 齋藤 杏実 さん
class: 教養学部 地域構想学科
grade: 4

STUDENT'S VOICE
自然環境への興味から、生態学に取り組む平吹喜彦先生のゼミに所属。これから卒業研究が本格化しますが、並行して就職活動も進めなければなりません。めざすのは、IT系企業への就職です。

教養学部地域構想学科では、人と自然、健康と福祉、社会と産業をテーマに、幅広い分野を学ぶことができます。その中で特に関心を持ったのが、自然環境に関する学びです。3年次後期からは、生態学を扱う平吹ゼミに所属し、フィールドでの植生調査に取り組んできました。調査場所は、仙台市宮城野区岡田の新浜。東日本大震災で津波の被害を受け、復興の過程では新たな防潮堤の建設や盛土が行われた地域です。ここでは2015年、2016年に先輩ゼミ生による調査がすでに行われていますが、今回の私の調査結果と合わせて津波被災後の植物の再生状況を明らかにするのが卒業研究の目的です。植物の種類や数を一つひとつ記録していくのはとても根気のいる作業ですが、植物の回復を実感できる貴重な経験となりました。

私のイチオシ

愛猫のメラルー
メラルーはブリティッシュショートヘアの8歳。家族の中では私が一番のお気に入りみたいで、同じ空間にいただけでとても癒されます。



name: 木船 翔太さん
class: 経済学部 経済学科
grade: 3

STUDENT'S VOICE
大学に入学し、「何か面白いことないかなあ」と探していた時に出会ったのがボラステでした。コロナが早く収まって、後輩たちと一緒に現地での活動を再開できる日が来るのが待ちきれません。

東日本大震災の発生直後から、教職員の皆さんとともに災害・復興ボランティア活動に取り組んでいる東北学院大学災害ボランティアステーション(通称ボラステ)の学生スタッフ副代表を務めています。現在、ボラステには約60名の学生が参加し、宮城県の沿岸部の気仙沼市、石巻市雄勝、石巻市牡鹿、七ヶ浜町、仙台市、山元町、丸森町でさまざまな活動を行っています。コロナ禍のため、現地での活動は見合わせることも多いですが、オンラインでのミーティングなどは定期的に開いています。私に関わってきたのは、石巻市牡鹿での漁業者支援で、かきの養殖に必要な“からこさし”のお手伝いなどを行いました。住民の皆さんとの交流を通して、人と関わること、会話することの楽しさを知りました。

私のイチオシ

“からこさし”の作業
“からこさし”でつなぐホタテの貝殻は、かきの幼生(赤ちゃん)を附着させて育てるためのもの。1本に20枚つなぐのに10分程度かかります。



キャンパスニュース

2020年度課外活動団体の主な活動報告

[体育会]

課外活動団体	大会・活動内容	結果
弓道部	全日本学生弓道選手権大会(女子)	4位
硬式テニス部	東北学生選抜室内テニス大会	優勝(男子ダブルス) 準優勝(女子ダブルス)
少林寺拳法部	少林寺拳法東北学生新人大会 (有段の部、白純単独演舞の部)	1位
準硬式野球部	関口杯東北地区大学準硬式野球トーナメント大会	優勝
スキー部	全日本学生スキー選手権大会	7位
スケート(アイスホッケー)部	東北地区大学アイスホッケー交流大会	優勝
軟式野球部	ゼット杯大学軟式野球大会東北王座決定戦	優勝
バスケットボール部	東北大学バスケットリーグ(男子)	準優勝
バドミントン部	東北学生秋季リーグ戦	2位(男子) 3位(女子)
洋弓部	東北学生アーチェリー王座決定戦(男子、女子)	優勝
ヨット部	東北学生ヨット選手権大会	2位
陸上競技部	東北学生陸上競技選手権大会 (男子1500M、ほか)	2位

[学生会、クラブ連、文化会、工学部]

課外活動団体	大会・活動内容	結果・活動等
応援団	幹部交代式	土樋キャンパス
SWE	卒業定期演奏会	土樋キャンパス
フォークソング愛好会	卒業演奏会	live studio ripple
演劇部	卒業公演	土樋キャンパス
写真部	三月展・卒業制作展	宮城県美術館
TMS	冬の定期演奏会	泉キャンパス
書道研究部	弥生展	宮城県美術館
落語研究会	落語会	仙台市福祉プラザ
r e m i x	卒業ライブ	live studio ripple
工学部 硬式庭球部	東北学生テニス夏季トーナメント	出場
工学部 バレーボール部	東北バレーボール大学男女リーグ戦	出場

NEW!

新しいサービスが始まります。

WEB閲覧サービス 保護者用

2021.10スタート(予定)

ご子供の成績、履修登録状況などが閲覧できます!
詳細はGROWTH秋号(10月発行)にてお知らせいたします。

スマホでも! パソコンでも!

PRESENT 保護者の方限定
プレゼント応募方法

右記QRコードを読み取り、後援会お問い合わせフォーム【相談内容】の欄に、グロースのご感想と「住所」、「電話番号」、「希望品名」を入力してください。ご応募いただいた方の中から抽選で各3名様にプレゼントいたします。

- 「東日本大震災と東北学院」
- 「千年災禍の海辺学」
- 東北学院大学論集「歴史と文化」

各3名様

応募はこちらから
応募締切
2021年5月31日(月)

※当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

学務部より

「知っておきたい授業に関わる10の用語」

学務部長 加藤 健二

シラバス:授業の内容、進め方、成績評価の方法などを細かく解説した資料。教員が記載通りに授業を進めることを学生に約束した「契約書」で、学生はこれを見てどの授業を履修するかを決めます。

キャップ(CAP)制:学生が過度に多くの授業を取らないように1年間に履修登録できる科目(単位)数を制限する仕組みで、各学部40~44単位に設定しています。

GPA:「全授業の平均点」。0~4の数値で示され、単位修得表に記載されます。2.5あたりが平均的で、1.0以下が続くと退学勧告をされる場合があります。

MyTG:シラバスの閲覧、授業の登録、成績発表、教員からの連絡など、学生との情報のやりとりに使われるインターネット上の連絡システム。学生はメールアドレス等を必ず登録します。

manaba(マナバ):授業資料の受け取り、質問と回答、レポート提出、出席確認等をスマホやパソコンで行え、その記録を残すことができる授業支援システム。学生は慣れること必須です。

授業形態:教室における通常の授業は**対面授業**と呼ばれています。指定期間中の好きな時間にmanabaを介して個別学習を進める形式の遠隔授業は**オンデマンド授業**、**Zoom**(遠隔会議システム)を使って双方向的に教員・学生とやりとりをしながら進める遠隔授業は**オンタイム授業**、対面授業と遠隔授業を併用するものは**ハイブリッド授業**と呼ばれています。学生は自分が受講する授業がどの形態で行われるかを知っておくことが大切です。

学生部より

「学生生活の充実のために」

学生部長 千葉 智則

1. 特待生及び優等生制度について

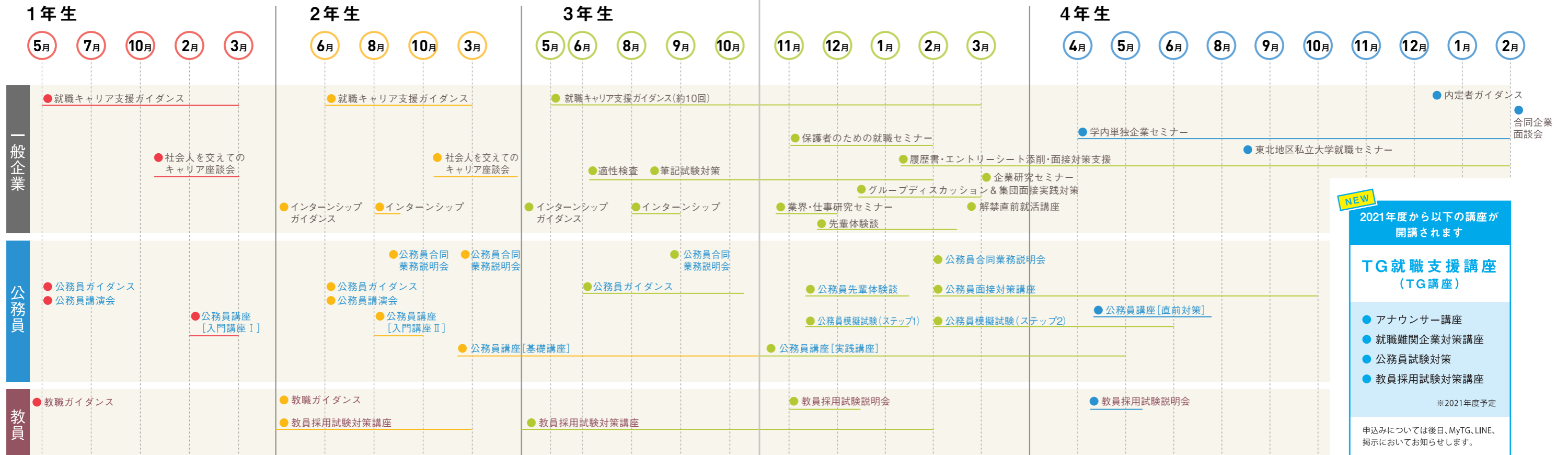
本学には、建学の精神を理解し、学業成績が特に優秀な学生を特待生、優等生として表彰する制度があります。これまで特待生には奨学金(30万円)と記念品が授与され、優等生には記念品が授与されておりましたが、2021年度より優等生にも奨学金(10万円)が支給されることとなりました。特待生および優等生は、各学部教授会が前年度の学業成績によって選考し決定します。なお、2021年度の特待生の定員は80名、優等生は各学科在学者数の3%(2020年度実績241名)です。近年は、アルバイトに専心してしまう学生も多く見られますが、学生の本分である学業に力をいれてこの奨学金を獲得してほしいと考えています。

2. TGランチについて

コロナ禍の中、栄養バランスの取れた食事を食べてもらい、学生の皆さんの健康を支えたいという想いから昨年度実施し大変好評を得ました「TGランチ」を、今年度も各キャンパス学生食堂にて提供することに致しました。メニューは、「ボリューム重視」と「ヘルシー重視」の2種類を用意します。しかも日ごとにメニューが変わります。1食500円相当のランチを200円で提供(数量限定)しますので、栄養満点で大変お得です。多くの学生の皆さんに利用していただきたいと考えています。

就職キャリア支援部より

就職支援スケジュール



NEW
2021年度から以下の講座が開講されます

TG就職支援講座 (TG講座)

- アナウンサー講座
- 就職難関企業対策講座
- 公務員試験対策
- 教員採用試験対策講座

※2021年度予定

申込みについては後日、MyTG、LINE、掲示においてお知らせします。

※スケジュールは、キャンパスによって多少異なります。また、行事は変更となる場合があります。